

働き方改革を実現するための『仕事の進め方改革』

必ず守れるスケジュールの立て方

- 納期を確約できるスケジュール計画（スケジュールマネジメント） -

～仕事の能率を上げ、しかもクオリティを高める実践的な手法を解説～

《開催要領》

※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

日時▶ 2020年 1月 21日（火） 13:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム（東京：麹町）

《開催にあたって》

政府による積極的な推進もあり、現在各企業は、「ワークライフバランスの実現」や「残業削減」に代表される『働き方改革』に取り組んでいます。人事制度・労務管理など制度面の施策は主管部門により行われ、一定の成果が出てきておりますが、業務量の大幅な削減が見込めない中であって、その実現は容易ではありません。本セミナーでは、実際に業務を担当する各々の「現場」において、つねにボトルネックとなっているスケジュールに関わるすべてのポイントについて「仕事の正しい進め方」を学び『働き方改革』を実現する具体的方策として提案いたします。

講師 プロジェクト・ソリューション研究所 代表 酒井昌昭 氏

講師紹介
ソニー（株）で主に開発・設計業務に従事。民生用製品から業務用システム開発などの分野を経験。プロ用VTR開発や放送局用コンソール開発など数多くの商品化プロジェクトのほか、海外 R&D の支援などを経験。同社を退職後 PM 研修講師の道に転身。2003 年に㈱ロゴを立ち上げ、代表取締役副社長を務めたのち独立、現在に至る。愛媛大学工学部卒。米国 PMI 認定 PMP。日本プロジェクトマネジメント協会などに所属。

《申込方法》 当会ホームページ (<https://www.bri.or.jp>) からお申し込み下さい。

企業研究会 Q 検索

受講料：1名(税込・資料代含) ※申込書を FAX でご送信いただく際は、ご使用の FAX 機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

正会員 35,200円 (本体価格 32,000円) 一般 38,500円 (本体価格 35,000円)

191828-0101 必ず守れるスケジュールの立て方

ふりがな 会社名			
住所			
TEL		FAX	
ふりがな ご氏名	所 属 機 関	役 職	
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛 E-mail からもお申込み頂けます。後日（開催日1週間～10日前までに）受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問（FAQ）は当会 HP にてご確認いただけます。（[TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問]）

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問い合わせ先: 企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail: tamiaki@bri.or.jp
TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F 【DM変更連絡】03-5215-3512

・プログラム・

■講師からのメッセージ■

現場担当者やマネジャーを悩ませる大きな要因に「慢性的なスケジュール遅れ」があります。納期遵守やスケジュール遅れへの対応に多大な時間や労力が割かれていますが、なかなか改善されません。納期遅れが生じるのには、実は明確な理由(原因)があります。本セミナーでは、①スケジュール遅れの根本原因を理解したうえで、②チームメンバーが自信をもって納期を守れる計画の立て方、③ストレスフリーの進ちょく管理のやり方を、演習を交えて理解していただきます。

1. よくある問題を認識する

- (1) 仕事は遅れるようになっている
- (2) 人間行動の特徴を理解しているか
- (3) 対症療法（もぐら叩き）では解決しない — 問題には共通する根本原因がある

2. 実力値でのスケジュールを立てる

- (1) スケジュールについてのよくある問題
- (2) スケジュールの立て方に問題がある — 実力値を無視している
- (3) あるべきスケジュールの立案方法
 - ・「2点見積もり法」でスケジュールを立てる
 - ・バッファーマネジメントで進ちょくを安全に管理する

3. 納期を確約する

- ・「依頼主の要求と合わない」を調整する

4. 段取りを改善する

- (1) TOC（制約理論）— 『システムはその最も弱い部分の能力で制約される』
- (2) 仕事をスピードダウンさせる原因を排除する
- (3) ボトルネックを考える

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい！ 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。